

Die Eiche

ディ アイヘ
http://www.jdg-chiba.com



Japanisch-Deutsche
Gesellschaft der Präfektur
Chiba

〒270-2214 松戸市松飛台556-12
Tel./Fax: 047-385-1456

Mail: info@jdg-chiba.com



協会Home Page

「林 静誠を送る会」に出席して 千葉県日独協会会長 金谷 誠一郎

当協会が1996年に発足以来、理事長として色々な面で大変お世話になりました林静誠氏が1月19日にご逝去され、同氏を偲ぶ会が6月9日に船橋市民文化ホールにて開催されました。同氏は1991年11月に社会福祉法人清話会の理事長に就任される以前から、千葉県青年団協議会会長（1965年）、船橋中央ライオンズクラブ9代会長（1976年）、船橋東警察官友の会会長（1982年）、陸上自衛隊第一空挺団後援会「傘の会」副会長（1984年）、船橋海洋少年団団長（1992年）、ライオンズクラブ国際協会333-C地区ガヴァナー（1995年）、海上自衛隊下総航空基地後援会「翼の会」会長（2004年）など20を越える団体の役員を歴任され、相当多忙な毎日をご過ごしておられた上に、当協会の理事長も引き受けていただき、当協会の事務局として、全国各地の日独協会から送付されて来る書類、通信などを当協会の担当者に転送していただく事務局業務もお願いして、大変お世話になりました。「偲ぶ会」の会場は、船橋市民文化ホールで行われ、会の冒頭には、熊谷俊人千葉県知事の弔辞が司会者により読み上げられ次いで臼井日出男元法務大臣を初めとする関係者の弔辞が続きました。

その後、林氏が応援しておられた、元宝塚星組トップスター、北翔海莉さんが、「マイ ウエイ」を独唱。その後も弔辞が続き、最後に参加者が一人づつ白いカーネーションを舞台前面に捧げ、故人の遺影に一礼して退場。

尚、当日は平尾名誉会長も参列されましたが、余りに多数の参加者の為に上手く合流出来ず、残念ながら、会が終了後に携帯で連絡し合う結果となりました。

林 静誠氏のご冥福を心よりお祈り申し上げます。 合掌

林 静誠さんからいただいた 宇宙あさがおの紹介

写真のアサガオは、2018年11月18日に開催されたドイツ軍人慰霊祭後の直会会場にて、林 静誠顧問からいただいた宇宙アサガオの子孫です。

その時のご説明では、宇宙飛行士の山崎直子さんが宇宙から持ち帰ったアサガオとのことでした。

どんな花が咲くか楽しみにして種を育てたところ、写真の如く宇宙を感じさせる淡い水色の花びらの美しいアサガオが咲きました。

林 静誠顧問は、誠に残念ながら、この1月にご逝去されてしまいました。

ここに、いただいたアサガオの種のお礼とともに、安らかなご冥福を心よりお祈りいたします。

（常任理事：吉川 三朗）



美しい淡い水色の花びらの宇宙アサガオ



林顧問とヴェアテルン大使夫妻（2018直会会場にて）

青壮年部 2022年度活動について 青壮年部部長 勝見 浩明

Die Eiche 2月号 (No.135) にて申し上げましたように、青壮年部の活動の目的と位置づけは、以下のように捉えることができるかと思っています。青壮年部は、会員向けオープンな活動体であり、同時に対外的な交流も積極的に実施いたします。



1. 組織の活性化

新規会員の増員、会員相互の交流の促進、対外交流の促進

2. 組織運営

内部知見の集約（専門家が多い）、発信力の強化、運営委員会との連携）と同時に2022年度より、青壮年部内において参加任意の研究会を設置

2022年度の組織運営の中で新たな試みとしては、具体的に以下の研究会を設立しました。この背景としては、2021年6月に実施した青壮年部懇談会において今後の活動の提案として、ドイツとの関りの強化、ドイツに関する知識を得る機会、懇談会の開催が挙げられました。これを行うには、千葉県日独協会内部における内部知見の集約が必要であろうと捉えています。対外活動を推進する上でも内なる実力がなければ、対外的に交流する上で当方サイドの実力、求心力がなければ続きません。

設立した研究会

- ドイツ歴史研究会（含ボトルシップ研究会）
- 日本語/日本文化研究会
- ドイツ語/ドイツ文学研究会
- ドイツ地誌研究会

上記、研究会の内、早速、「日本語/日本文化研究会」においては、7月16日に日本在住のドイツ語を母語とする方々とオンラインシュタムティッシュを開催しました（詳細、次頁）、ドイツ地誌研究会は、メンバー内で調査対象とする街を検討開始、秋には、Berlin/Brandenburg地方に関する講演会を予定。ドイツ歴史研究会では、ドイツ俘虜研究の研究探索とともに年末には、「旧ドイツ領」であったエルザス＝ロートリンゲンに関する講演を予定（会員：衣笠講師－神戸大学大学院国際文化学研究所）。この研究メンバーにおいては、研究メンバーから更に「ボルゴドイツ」について知見を深めたいという提案もありました。その歴史、ボルゴドイツ語の探索などの可能性があります。ドイツ語/ドイツ文学研究会では、ドイツ語教育、ドイツ語運用のテーマアップがなされています。各自テーマの持ちよりで進めたいと思っています。この研究会に参加されたい方は、勝見までご連絡お待ちしております。

「鳴門ドイツ館ヴァーチャルツアー」 参加報告

6月21日、会員より紹介頂き、鳴門市ドイツ館ヴァーチャルツアーという講演会に参加しました。主催は、「DeutscherMarkt」というドイツの街などを紹介する会社となります。ドイツ世界遺産、Rügen島の紹介などを有料でハイブリットで行っています。



鳴門ドイツ館全景-HPより引用

今回、このツアーに参加した目的としては、ドイツ館における展示内容を把握したい点とドイツ人俘虜に関してどのようなアーカイブ資料として存在するのかわ確認したかった点となります。今後、当時のドイツ人俘虜に関してこれまでの研究内容の概要をつかむことにより、研究の方向性を探りたいと思いました。アーカイブの中心としては、当時のドイツ人俘虜の生活、日本人との交流、他の俘虜収容所に関する研究についての資料の構成となります。坂東俘虜収容所の兵士たちの機関紙のアーカイブがここにあるという話を教えていただきました。Die Barackeという雑誌。

<http://www.dt-haus.org/doitsukan/index.html>

また官報「ルーエ」、研究誌のデジタル文献もあり、その中には、エーリヒ カウルに関する研究詩もありました。文献販売もされていました。その他

ドレスデンの連邦軍事博物館 <https://www.mhmbw.de/>

にも第一次対戦において日本に滞在したドイツ捕虜についての文献などあるとのことでした。今後、ドイツ館との接点構築を行い、この分野の研究の最新課題と残課題を整理したいと思いました。(常任理事：勝見 浩明)

青壮年部日本語/日本文化研究会 日本語オンラインシュタムティッシュ 開催報告

7月16日(土) 10:00-11:30までオンラインシュタムティッシュが開催されました。日本語を通じてドイツ語が母語の方との文化交流を図り、今後の交流の起点にするという勝見青年部長のコンセプトのもとに企画しました。

テーマは、「『思いやり』は、日本だけ？日本文化とドイツ語に訳しにくいことば」。先生は、日本語教師歴20年の室田真由見理事。参加者は、日本在住のドイツ語話者3名を含む総勢8名でした。

木戸副会長のご挨拶、参加者の自己紹介の後、先生を中心に、このテーマについてのディスカッションが始まりました。「思いやり」に相当するドイツ語がいくつか挙げられ、その言葉を持つニュアンスについて説明、更には、訳しづらい言葉や、「腹」を使った日本語の表現など、様々な意見交換が行われました。



興味深いのは、個人によって言葉の持つ印象や感覚が異なる事。日本語を学ぶ皆さんの豊富な知識量に感心し、また言葉の奥深さを改めて実感することができました。少人数でしたが無事に開催でき、先生はじめ参加者の皆さんには心から感謝しています。

さて今回、「思いやり」に近いドイツ語は、「einfühlsam」ではないか、という事になりましたが、皆さんのお考えはいかがでしょうか？

(常任理事：本橋 緑)

ドイツの街紹介 フランケン地方の美しい古都 -Würzburg-

フランクフルトから南東へ車で約1時間半のところ、ロマンティック街道の北の起点となる人口約12万人のヴェルツブルクがあります。この町のすぐ南にはローテンブルク、そして、遠くはフュッセン(ノイシュバンシュタイン城)まで続く街道の旅は、バブル期には多くの日本人団体ツアーの定番になっていたこともあり、思い出される方も多いかと思います。



メイン川とマリエンベルク要塞

町の歴史は古く、紀元前1000年ころにはケルト人がメイン川沿いに城砦を築き、8世紀には司教座聖堂がおかれ、その後大司教の居城兼要塞として築かれたマリエンベルク要塞がブドウ畑の丘の上に堂々と立っています。ここからは、眼下に歴史ある町並みが一望できます。



旧メイン橋と聖ギリシャ像

町の傍にはメイン川が流れ、それを跨ぐアルテ・メイン橋の欄干には12体の聖人像が立っており、中央の聖ギリシャ像は町の方向を眺め、今も中世の面影が残っています。そして、橋の袂の市庁舎から大聖堂に続く大通りは市電が通りながらも自然を保っています。また、市庁舎の地下にあるラーツケラーのドイツ料理とこの地方のフランケンワインは最高で、飲みすぎて次の日から左足の指に痛風が出しまったほどでした。



レジデンス正面と噴水

橋を渡った正面にはロマネスク様式の大聖堂があり、少し進むと世界遺産に登録されているレジデンスに到着し、ドイツ・バロックの代表的建築物と内部の部屋と装飾品の豪華さと、壮大な階段の間の天井のフレスコ画には圧倒されます。裏の庭園も素晴らしく、また、正面入り口前のフランコニアの泉と重厚な建物も記憶に残っています。その他、アダムとイブ彫像があるマリエンカペル、美しいマリア像のあるノイミュンスター教会等、この町は歴史的な建物にあふれています。



大聖堂のロマネスクの塔

それとは対照的に、郊外の小さな町ヴェアトハイムの傍にはドイツ最大級のアウトレットショッピングが出来ており、ドイツも時代の変化の波があることに驚かされました。



市庁舎横の大通り

有名な人物としては、これまでにDie Eicheで幾度も取りあげられているシーボルトはこの町に生まれ、当地の大学で医学を学び、幕末に長崎の出島に來日して日独の懸け橋となっています。また、19世紀の物理学者のレントゲンもヴェルツブルク大学で研究の後にX線を発見し、ノーベル物理学賞を受賞しています。



ノイミュンスター協会

魅力あるドイツへの旅も、コロナとウクライナ戦争で遮られています。また、当協会の研修旅行の再開や個人旅行ができる日が来ることを願っています。

(常任理事：志賀 久徳)

FIFA ワールドカップカタール2022

-ドイツチームを応援しよう-

今年は4年に1度のサッカーの祭典、FIFAワールドカップ2022がカタールで行われます。初の中東&初の冬季開催となります。

なんとドイツ代表の初戦の相手は日本！！予選グループEは、日本、スペイン、コスタリカ、ドイツの4チーム、上位2チームが決勝トーナメントに進出できます。

代表メンバーが確定するのはもっと先ですが、サッカー観戦がより楽しめるように、注目選手を紹介しします。

まず代表を率いるのはハンジ・フリック監督。かつてドイツ代表でヨアヒム・レーヴ監督のアシスタントコーチを務め、2014年のブラジルW杯優勝などに貢献、去年バイエルンミュンヘンの監督から代表監督に就任しています。

選手で一番に名を挙げるべきは、誰もが知る、ドイツ不動の守護神マヌエル・ノイアー（36歳 GK）。また2010年からA代表国際試合で40点以上のゴールを決めているトーマス・ミュラー（32歳 FW）。さらにジョシュア・キミヒ（27歳 MF）レオン・ゴレツカ（27歳 MF）などは皆、バイエルンのチームメイト。代表チームをひっぱりだすベテラン勢の活躍が期待されます。

次に他リーグで安定した活躍を見せているのがイルカイ・ギュンドアン（31歳 MF マンチェスターC/ENG）、アントニオ・リュディガー（29歳 DF レアルマドリッド/SPA）、カイ・ハベルツ（23歳 MF チェルシー/ENG）。ドイツ代表の層の厚さが伺えます。また全ドイツファンが待ち望んでいるのは、移籍前の19-20シーズンにブンデスリーガで28得点をあげたティモ・ヴェルナー（26歳 FW チェルシー/ENG）の爽快なゴールでしょう。

最後に次世代を担う注目の若手。ジャマル・ムシアラ（19歳 MF バイエルン）は、数々の最年少記録を持ち、19歳にしてすでにバイエルンでの経験も豊富。ニコ・シュロッターベック（22歳 DF ドルトムント）は21-22シーズン、ブンデスリーガで急成長を遂げたDFです。共にこれからの進化がとても楽しみな選手です。



代表ユニフォーム2018（上）、2020～（下）

8月にはヨーロッパの各リーグ22-23シーズンが始まります。是非それぞれの躍動感あふれるプレイをチェックしてください。そして大のサッカーファンの方も、サッカー初心者の方も、皆で一緒にドイツ代表を応援しましょう！

- （）内は年齢、ポジション、所属（2022年7月時点）
- ポジション： GW ゴールキーパー、DF ディフェンダーMF ミッドフィルダー、FW フォワード
- ドイツ代表のグループリーグ（予選）日程：

11月23日 ドイツ 対 日本
11月28日 スペイン 対 ドイツ
12月2日 コスタリカ 対 ドイツ

（常任理事：本橋 緑）

激動期のドイツに滞在



ドイツと私 - 木戸秋 圭一

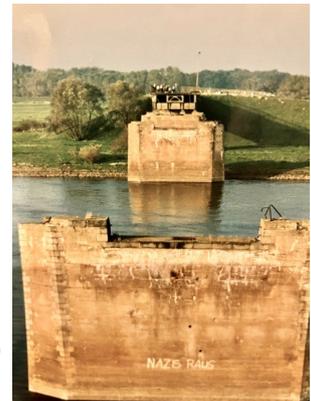
JALの直行便がHamburgにまだ飛んでいた1987年12月に赴任。その2年後のBerlinの壁崩壊、翌年の東西ドイツ統一を現地で体感、30代の前半を家族4人で暮らし、今も鮮明に脳裏に焼き付いていることを少しご紹介できればと思います。



ベルリンの壁の前に立つ筆者

赴任当時は誰もが想定しなかったBerlinの壁崩壊。1989年5月にHungaryから始まったButterfly effectが日を追うごとに広がって行く様子を体感できたことは、私の人生に最大級のインパクトを与えたもの、と言い切ることができます。

Hamburgは、東独との国境に比較的近いこともあり、週末には日本からの出張者をよく東西ドイツが分断された場所にお連れしました。道が途中で寸断されたところには、監視塔から監視人が見張っていました。川に架かる橋が途中で無くなっているところを見たときには言葉を失いました。西ベルリンから東ベルリンに自家用車に入った際には、ボディの下部までチェックを受け、子供がどこかに隠されていないか念入りなチェックを受け、心臓バクバク状態で白黒の東ベルリンの世界を初めてみたときには驚愕。こんな世界が物資豊富で賑やかな西ベルリンの目と鼻の先、同じ空の下に存在するのか！



戦後も破壊されたまの橋

1989年11月9日「壁」が崩壊し、東から西への往来が自由になった週末に「国境」に行くと、歓喜に満ちたドイツ人で溢れWir sind ein Volkの大合唱、当時東独には珍しかったバナナ、珈琲等が振舞われました。それから毎週末、東独を代表する自動車Trabantが50m先でも存在が分かるような排ガスを放ちながらHamburgの街に押し寄せるように。

また、現地の大学病院で息子の出産に立ち会いましたが、様々な面で日本との違いに驚きました。先進国同士でなぜこんなにも考え方が違うのだろうか。出産に夫が立ち会うのは至極当然。産まれたばかりの我が子を逆さまにして身長を測り、産着を着せるのは旦那の仕事でした。



家族の誕生の立ち合い

ドイツ人は半端なく時間厳守。早朝6時にタクシーを予約すると、6時の時報と共に玄関のブザーが鳴る。カーテン屋さんが来訪する約束の時間に家内の到着が5分遅れただけで帰られてしまったことも。ドイツ人は秩序を大切に、時間を厳守し、効率的に仕事をするので、ルールを守り、レールの上に乗っていれば快適に過ごせます。そうそう職場で365日の予定表が個室の壁に貼られていたのにも驚きました。Woche 30~34はUrlaubなので、出張はWoche 36に、のように第1週~52週までを俯瞰しながら年初に計画していく姿にドイツ人らしさを感じたものです。

「ドイツ語入門研究会」へのお誘い

私はドイツ語教員の在職中から、退職後は大学の教員と学生という関係ではなく、同好の士と、ドイツ語の初歩をともに学ぶクラブ活動のような場をもちたいと思っていました。教場ではないので、受講料も試験も成績評価もなし（ただし、教科書は各自で購入していただいています）。これまでドイツ語を学びたいと思いつつ、その機会がなかった方々に、ドイツ語学習のナビゲーター役を務めたい。

そんな思いを込めて「ドイツ語入門研究会」をこの1月からスタートさせることができました。会が動き出してみますと、ドイツ勤務歴が豊富で、私よりドイツ事情にずっと詳しい方、文学や音楽に造詣の深い方、留学を考慮しておられる方等々、様々なバックグラウンドをおもちの方々が集まってくださいました。こうした皆様と無理することなく、和気あいあいと独語の学びを楽しんでいるのは、ナビゲーター役の私かもしれません。

毎週、火・木の夜7時30分から40分間、Zoomを使って開催。千葉県日独協会会員限定。いつでも会はオープン。会員の皆様ぜひ一度、お気軽に覗いてみていただけますと幸いです。この研究会発足にあたり、また発足後も、サポート役をいつも気持ちよくお引き受けくださる、本間、本橋両常任理事に心から感謝申し上げます。

※「ドイツ語入門研究会」お問い合わせメールアドレス：
dec.chiba@gmail.com

(理事：木戸 芳子)



映画/Film

今回はドキュメンタリー映画「北のともしび ノイエンガンメ強制収容所とブレンフーザー・ダムの子どもたち」をご紹介します。

ハンブルク郊外のアルテンガンメ村に、かつてナチス・ドイツの強制収容所があり（現在は記念館となっています）、ここで20名のユダヤ人の子供たちが人体実験の犠牲となりました。この映画は、現代の高校生たちが子供たちの悲劇に向き合おうとし、遺族や元収容者と交流する様子、また、記念館を訪れる人々を描いた長編ドキュメンタリーです。

東京・赤坂のドイツ文化会館で行われた試写会で本映画を見る機会がありました。ドイツ第二の経済都市で活気溢れる港町、そして文化の中心地ハンブルクでこのような痛ましいことがあったことにショックを覚えました。当時の幼い子供たちの写真と現代の若者たちの対比が悲しく、静かな語りと穏やかな音楽が心に染み入ります。過去の歴史を通し、我々は何を忘れてはいけないのか学ぶことのできる貴重な映画です。

(常任理事：本間 美里)

「北のともしび ノイエンガンメ 強制収容所とブレンフーザー・ダムの子どもたち」

開催期間：～8月19日（金）

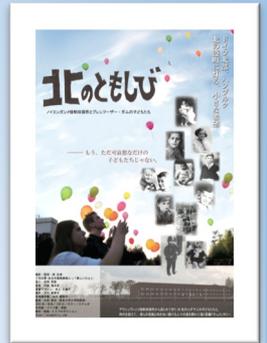
会場：新宿・K's cinema

監督：東 志津

語り：吉岡 秀隆

音楽：阿部 海太郎

2022年／日本／108分／独語、英語、日本語



●上映時刻：連日10:00～

●8/6（土） 8/11（木祝）、 8/13（土）：

上映終了後、日替わりで吉川美奈子氏（独英字幕翻訳）、阿部海太郎氏（作曲家）、グンダーマン真衣子氏（独日英翻訳・通訳）によるゲストトーク予定

●上映期間中、東監督の過去作品上映の際は「北のともしび」は休映（8/7,10,14,17）

予告編

<https://www.youtube.com/watch?v=eHXKuth3pc8>

S.Aプロダクション 公式サイト <https://azumashizu.com>

新宿K's cinema 公式サイト <https://www.ks-cinema.com>

新型コロナウイルス感染状況を鑑み、上映スケジュール等につきましては劇場公式サイトでご確認ください。

訃報

伊藤良昌 名誉会員

伊藤良昌氏は、2022年5月29日に逝去されました。享年86。名誉会員の本協会との活動の詳細は、次号にてお伝えします。

今後の予定

- 2022年度オンラインドイツ語講習会 —今秋から開催予定—
講師：岡村 三郎先生（当協会理事・早稲田大学名誉教授）
●詳細は、協会HP、メールにて別途ご案内致します。

会員情報

法人会員 医療法人 同和会 千葉病院、社会福祉法人清和会、
(株)京葉ビル管理、(株)和幸電気工事

編集後記

2022年度の活動がスタートして早3か月が経過しました。新年度体制に切替わり、運営委員会の活動にも新風が吹き始めています。青壮年部内の複数の研究会も始動しましたが、具体的な対外活動の第一弾である日本語シュタムティッシュでは、ドイツ語母語者からのニーズを充分感じ取ることができました。同時にこの活動を継続的に続けることで協会内部での実力も蓄積されると思うに至りました。手ごたえを感じました。活動を楽しみながら、推進したいと思っています。（勝見 浩明）